

2022年7月25日  
国立大学法人東京大学

## 「東京大学と周辺地域の連携による 東京大学本郷地区キャンパスエリア活性化に向けた基本構想」 の手交式を実施

国立大学法人東京大学（東京都文京区、藤井 輝夫 総長）は、令和4年7月25日に、文京シビックセンター（文京区役所）にて「東京大学と周辺地域の連携による東京大学本郷地区キャンパスエリア活性化に向けた基本構想」を、成澤 廣修 文京区長へお渡しする手交式を行いました。

### 1. 基本構想策定の目的

令和3年9月、東京大学は藤井総長のもと基本方針「UTokyo Compass」を公表しました。そのうちの視点のひとつ「場をつくる」に基づき、3つの目標「安心して活動でき世界の誰もが来くなるキャンパス」、「教育研究活動の支援」および「社会への場の広がり」を掲げています。

「東京大学と周辺地域の連携による東京大学本郷地区キャンパスエリア活性化に向けた基本構想」は、この目標の実現に向け、基盤となる「まち」全体すなわちキャンパスと周辺地域を含めた「本郷地区キャンパスエリア」の活性化を図り、東京大学にふさわしい教育研究環境をキャンパスの内外に整備し、地域の発展を推進し、地域との連携を一層強化することを目的に策定されました。

### 2. 基本構想の概要

#### （1）エリアの将来像

東京大学は地域連携を一層強化し、さらに地域社会と一体で「まち」の活性化を目指します。大学の地域実装の拠点として本郷地区キャンパスエリア全体をフィールドと位置づけ、地域との対話を進め、地元根付いた教育研究活動を広げます。それにより、地域課題の解決から地球規模の課題解決、さらにインクルーシブキャンパスを実現し、エリア全体がキャンパスタウンとして発展することを目指します。

#### （2）基本方針の概要

以下の5つの基本方針をもとに「本郷地区キャンパスエリア」の活性化を図ります。

#### ◆基本方針1：多様性と包摂性を尊ぶ開かれたキャンパスの形成

- ・地域との対話を進め、キャンパスの境界（エッジ）部分の、良好な在り方を目指します。
- ・キャンパスを多様性と包摂性を尊ぶ空間と位置づけ、対話の場となることを目指します。

#### ◆基本方針2：キャンパス内屋外空間の一層の活用

- ・屋外空間の一層の活用を図り、地域全体の質の向上に資する空間を目指します。

#### ◆基本方針3：歴史的風致の保全と最先端教育研究・医療環境の整備

- ・歴史的な資源を継承しつつ、老朽化施設の改善やバリアフリー対策等を実施し、良好なキャンパス環境の創出を目指します。
- ・世界最先端に行く良好な教育研究環境や医療環境と歴史性を有する豊かな屋外空間が共存する魅力あるキャンパスを実現するために、合理的配慮に基づいた建物の高度利用など、限りある本郷地区キャンパスの空間を有効利用する手段の検討を行います。

#### ◆基本方針4：地域が抱える社会課題への貢献

- ・住民・企業・自治体等と協議を行い、本郷キャンパス周辺地域の活性化に向けたまちづくりを、地域とともに推進します。
- ・GX（Green Transformation）推進について、産学官公民連携を通じ東京大学が果たすべき役割を十分に地域に還元することを目指します。

#### ◆基本方針5：新たな「大学のあるまち」の創生

- ・東京大学が強みを有する分野・技術の支援強化等の産学官公民連携を進め、新たな時代の大学のあるまちの創生を目指します。
- ・地元地域に根付いたローカルネットワークを構築し、産学官公民が連携し、キャンパスエリアの活性化を図ります。

### (3) 具体的な行動計画（アクションプラン案）の例示

基本方針に基づき、現段階で想定し得る具体的な行動計画を例示しています。今後学内や文京区等との協議などを進め、実現可能性を検討していく予定です。

## 3. 手交式

以下の日程で手交式を行いました。

日 程：令和4年7月25日（月）  
場 所：文京シビックセンター（文京区役所）  
出席者：成澤 廣修（文京区長）  
藤井 輝夫（東京大学 総長）  
大久保 達也（東京大学 理事・副学長）  
浅見 泰司（東京大学 副学長）  
横張 真（東京大学 総長特任補佐）

## 4. 問い合わせ先

東京大学 施設部 施設企画課 事業企画・地域連携チーム  
小林（090-6518-6423）  
坂東（090-6519-2192）  
E-mail：[jigyokikaku.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp](mailto:jigyokikaku.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp)